

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成 21 年度採択）

中間評価結果

番号	研究課題名	研究代表者	評価
21-1	道路交通の時間価値についての研究	東京大学大学院 准教授 加藤 浩徳	B

<研究の概要>

道路交通時間価値の推定方法に関する国内外の研究動向ならびに運用状況を踏まえつつ、我が国の実情に即した道路交通時間価値の推定方法を検討する。また、我が国の実データを用いて、道路交通の時間価値設定のあり方について検討する。

<中間評価結果>

行政における重要な課題の 1 つであり、海外事例における設定の背景、現場での運用を把握しつつ、日本の実状に適した推定手法となるよう、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

1. VOT に対するさらなる社会的理解を得るため、選好特性を反映した結果としての VOT と時間（時刻）制約によって行う行動が決まってくる場合の VOT を区別していただきたい。
2. 所得接近法の場合、平均値としての時間価値を計測すると、業務のケースでは過小評価となる（GDP への貢献が正確に反映されていない）と思われるため、この点について検討していただきたい。
3. 時間価値が異なる道路利用者が混在する社会においては、平均値としての時間価値の測定のみでは適切な道路政策への含意が導出されないと懸念される。この点について、明確なインプリケーションを導出できる研究を検討いただきたい。
4. 到着時間の確実性に関する時間便益の研究や、他の交通モードにおける時間価値の状況、文献レビューによるメタ分析等をわが国の時間価値推計にどのように反映させるのかといった点についても、視野に入れて研究を進めていただきたい。
5. SP 調査では、地域や交通目的により時間価値が異なるため、調査の規模や設問設計については、十分な検討をお願いしたい。